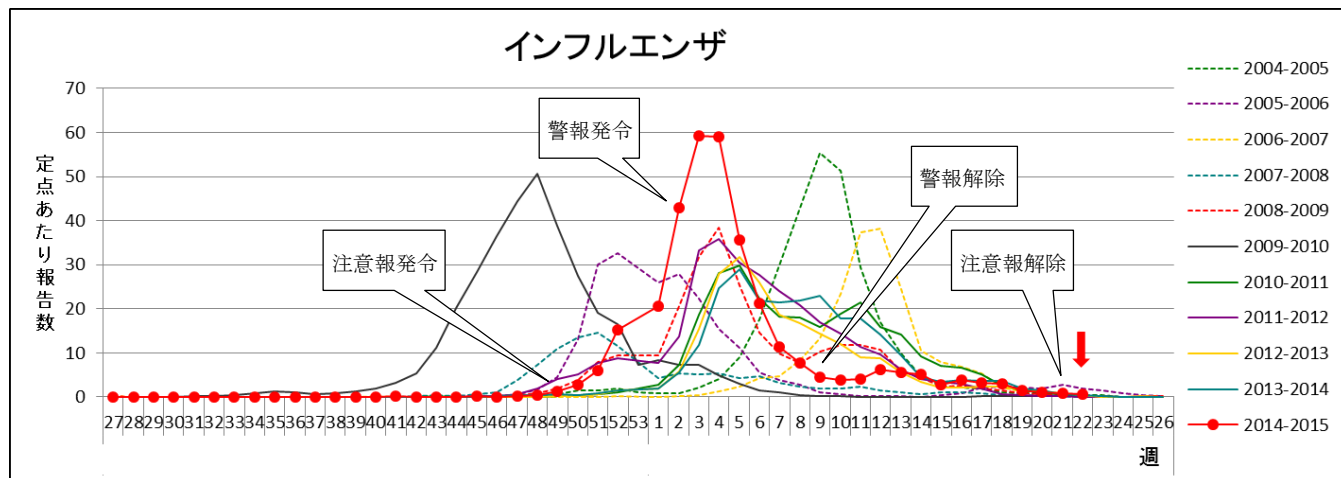


岡山県 インフルエンザ発生状況

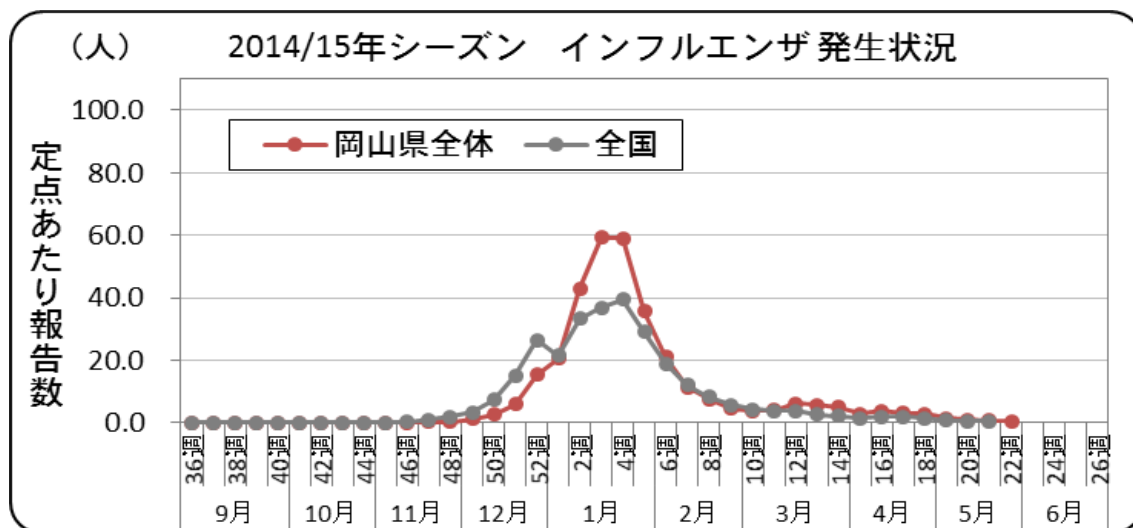
(2014/2015 年シーズン流行のまとめ)



2014/15年シーズン（2014年9月1日～2015年8月30日）のうち、2015年5月31日までの、岡山県におけるインフルエンザの発生動向をまとめました（県内84定点医療機関報告）。

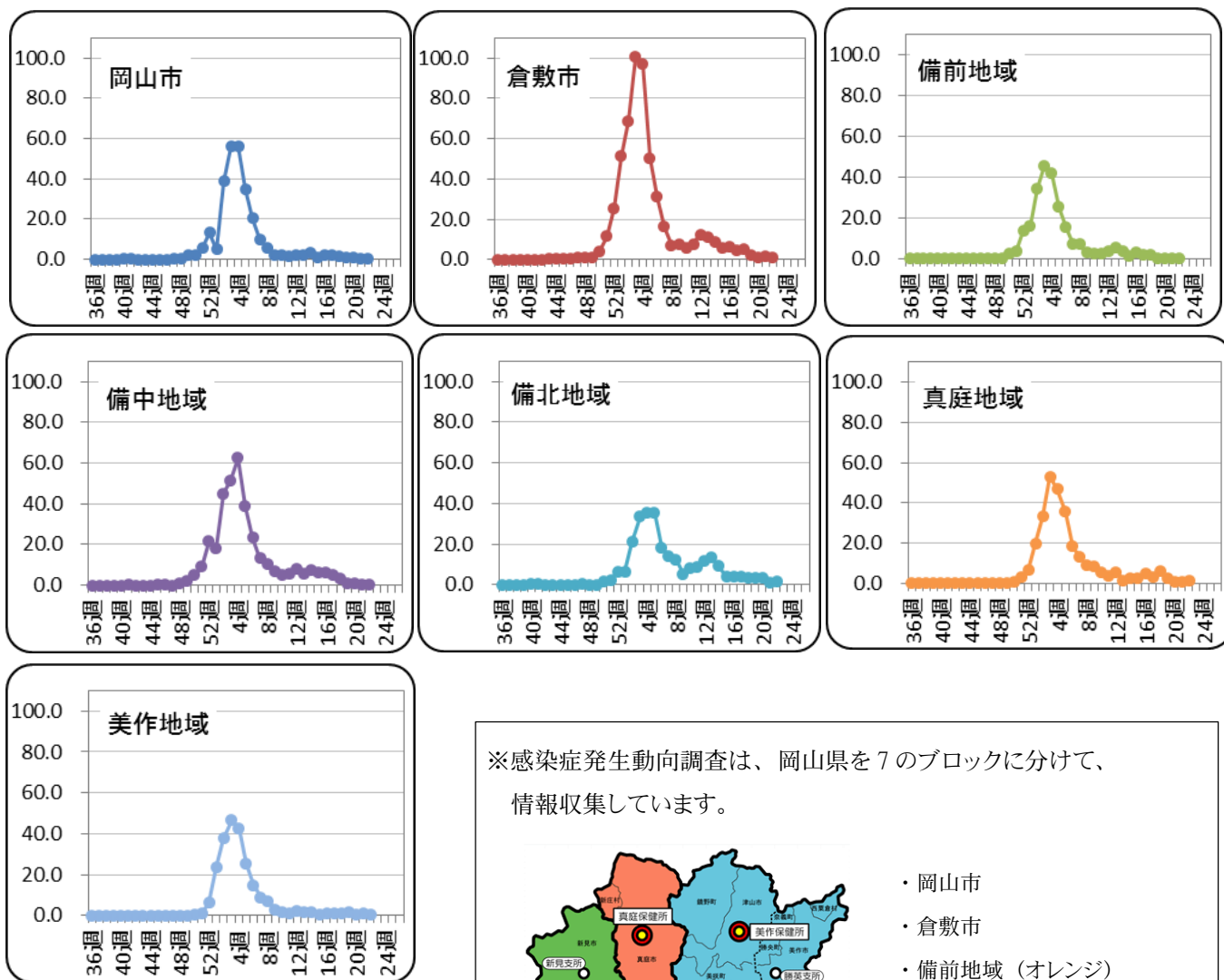
岡山県では、2014年第36週（9/1～9/7）に今シーズン初めての患者が報告されました。第49週（12/1～12/7）には定点あたり報告数1.24人となり、注意報発令基準の定点あたり1.00人を上まわったことから、岡山県は12月11日「インフルエンザ注意報」を発令しました。その後、急速に流行が拡大し、2015年第2週（1/5～1/11）には定点あたり42.99人となり、警報発令基準の30.00人を上まわったため、1月15日「インフルエンザ警報」を発令し、さらなる注意喚起をはかりました。第3・4週（1/12～1/25）、過去10年間で最も高いピーク（59.21人・58.98人）となり、以降急速に減少しました。その後、第8・9週と2週連続で定点あたり10.00人を下まわったため、警報から注意報に切り替え、以降定点あたり報告数は、ほぼ横ばい状態から徐々に減少しました。5月中旬の第20週（5/11～5/17）には0.96人、第21週（5/18～5/24）には0.81人と、2週連続して定点あたり1.00人を下まわったため、岡山県は5月28日「インフルエンザ注意報」を解除し、今シーズンの県内のインフルエンザの流行は、ほぼ終息したと考えられます。

全国では、2014年第48週（11/24～11/30）に定点あたり報告数が1.90人となり、流行期に入りました。その後、2015年第4週（1/19～1/25）に定点あたり39.42人となり、流行のピークを迎えました。以降、岡山県とほぼ同様に推移し、第20週（5/11～5/17）には定点あたり0.59人となり、鹿児島県及び沖縄県以外の全国の保健所地域で、注意報レベルを下まわりました。



1. 地域別発生状況

地域別発生状況は、2014年 第36週（9/1～9/7）頃から、真庭以外の地域で散発的に患者が発生していました。流行初期は岡山市、倉敷市、備前地域、備中地域を中心に拡大し、2014年第51週（12/15～12/21）には全地域で流行開始の指標である定点あたり報告数 1.00 人を上まわり、県内全域で流行期に入りました。その後、患者は急速に増加し、各地域のピーク時の定点あたり報告数は、岡山市 56.41 人、倉敷市 100.69 人、備前地域 45.73 人、備中地域 62.58 人、備北地域 35.67 人、真庭地域 53.00 人、美作地域 46.60 人でした。各地域とも、2015年第3～5週（1/12～2/1）をピークに、患者数は減少しつづけ、第22週（5/25～5/31）、真庭地域（1.67 人）及び備北地域（1.50 人）を除く全ての地域で定点あたり 1.00 人を下まわり、今シーズンの流行はほぼ終息したと考えられます。



※感染症発生動向調査は、岡山県を7のブロックに分けて、情報収集しています。

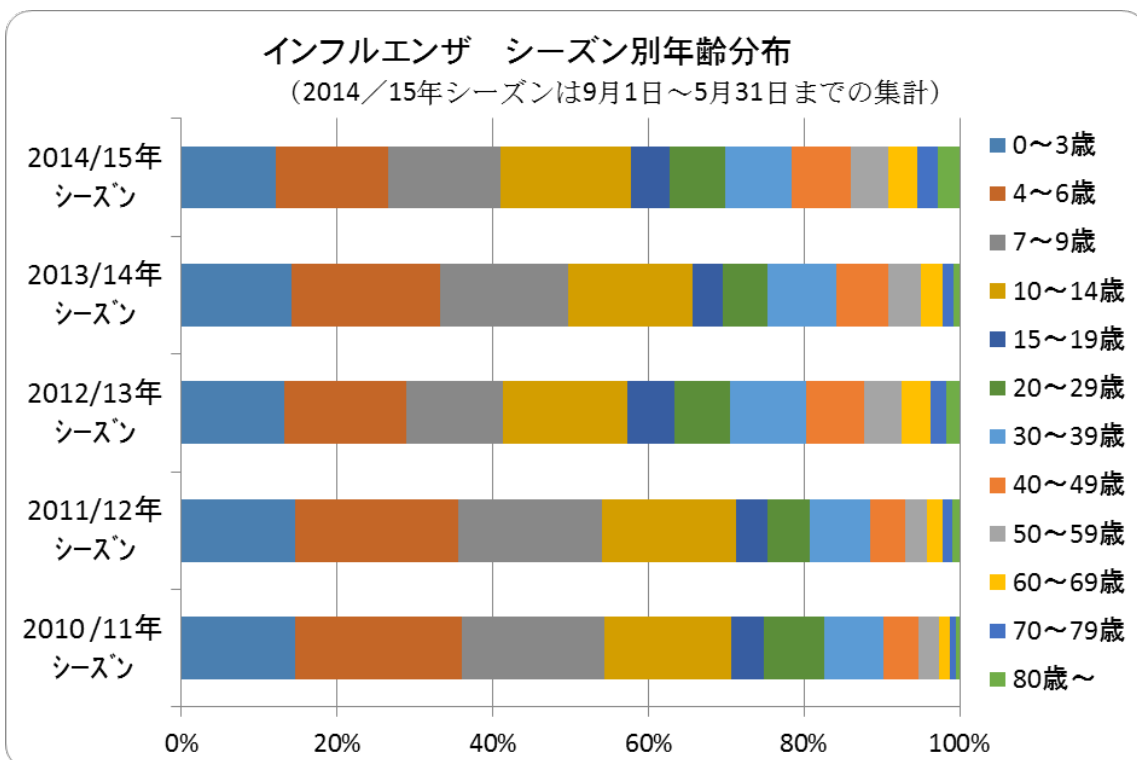
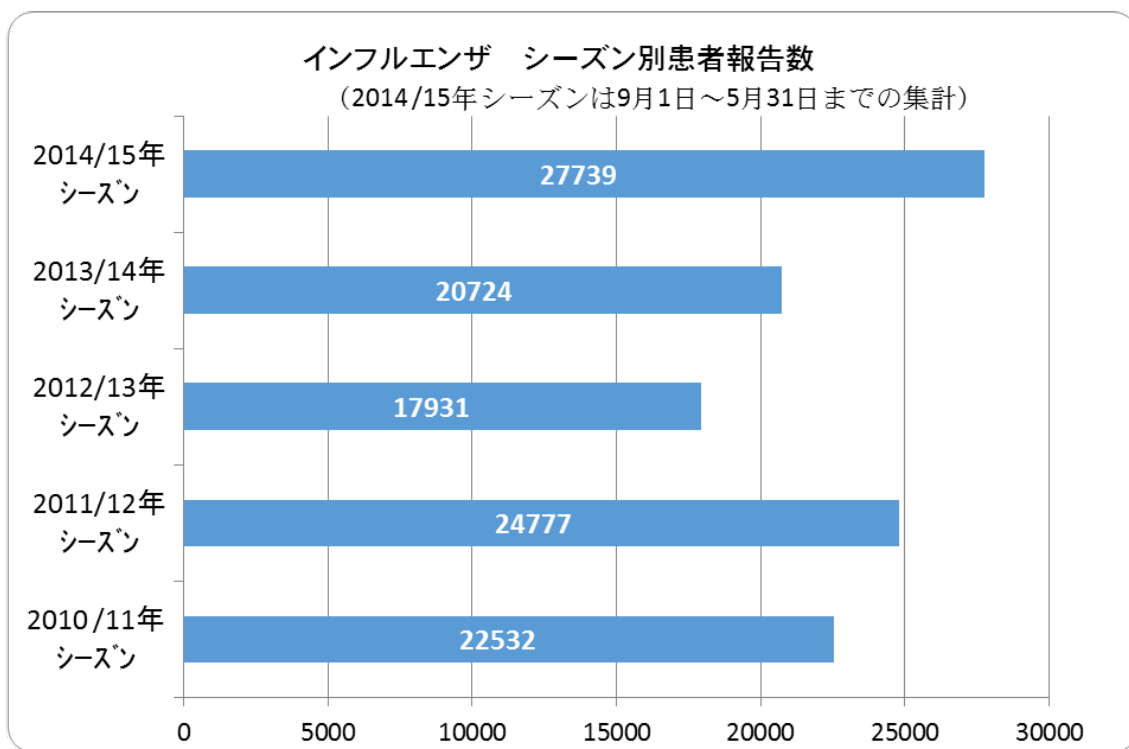


- ・岡山市
- ・倉敷市
- ・備前地域（オレンジ）
- ・備中地域（黄）
- ・備北地域（緑）
- ・真庭地域（ピンク）
- ・美作地域（青）

2. 年齢別発生状況

今シーズン（2014年9月1日～2015年8月30日）のうち、2015年5月31日までの県内の患者報告数は27,739人となり、過去5年間で最も患者発生の多いシーズンとなりました。

年齢別割合は、10～14歳が最も高く（16.8%）、つづいて4～6歳（14.5%）、7～9歳（14.3%）の順でした。昨シーズンと比較して、80歳以上の割合が大きく増加しました。



※インフルエンザは、9月から翌年8月までを1シーズンとして集計しています。

3. インフルエンザウイルス検出状況

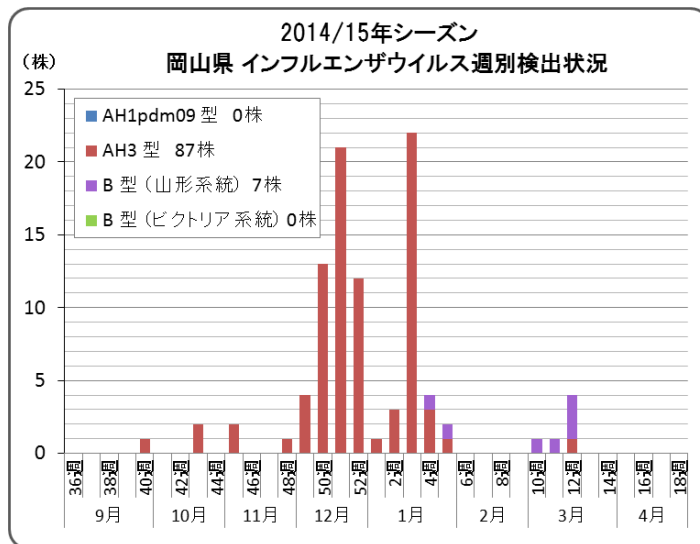
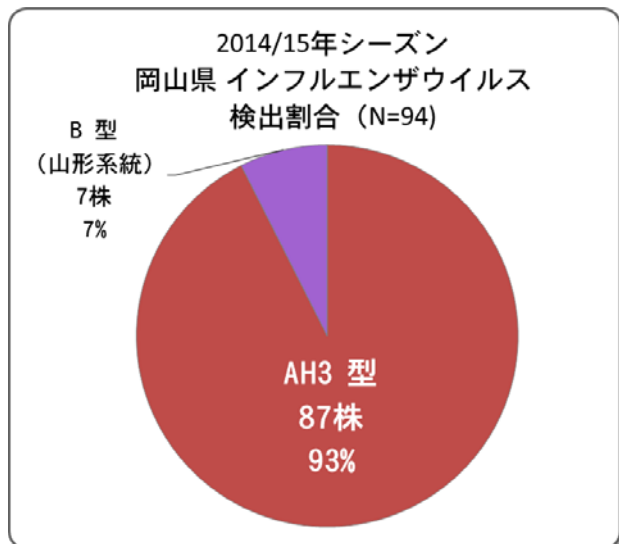
今シーズン（2014年9月1日～2015年8月30日）のうち、2015年5月31日までの岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルス94株の検出割合は、AH3型が93%（87株）と最も高く、次いでB型が7%（7株）でした。昨シーズンは、AH1pdm09型が最も多く検出されましたが、今シーズンは、2シーズンぶりにAH3型が主流となりました。

月別検出状況は、第40週からAH3型が検出され始め、12月にはその検出数が急激に増加しました。その後、第4週からB型（山形系統）が検出され始め、3月はB型の割合がAH3型よりも多くなりました。

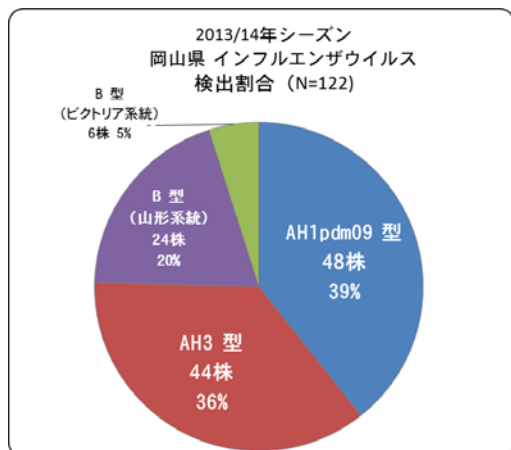
全国で今シーズン検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型 5101株（87%）、B型 714株（12%）（B型のうち山形系統 612株、ビクトリア系統 51株、系統不明 51株）、AH1pdm09型 57株（1%）と報告されています。累計ではAH3型が最も多く検出されましたが、第8週（2/16～2/22）以降は、B型の検出割合が増加しました。昨シーズンは、AH1pdm09型が主流で複数のインフルエンザウイルスが同時に流行しましたが、今シーズンは、AH3型が流行の大部分を占めました。（2015年6月4日現在）

[インフルエンザウイルス分離検出状況 国立感染症研究所](#)

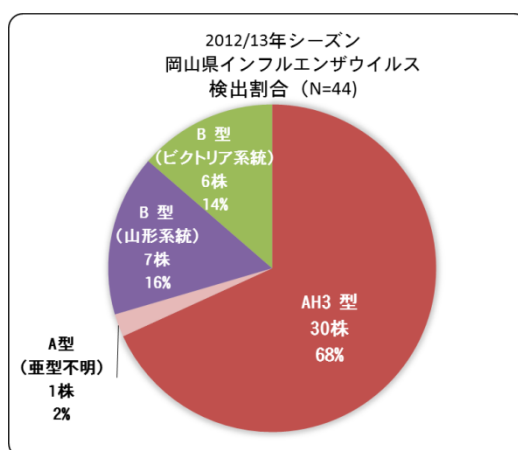
【2014 / 15 年シーズン】



【2013 / 14 年シーズン】

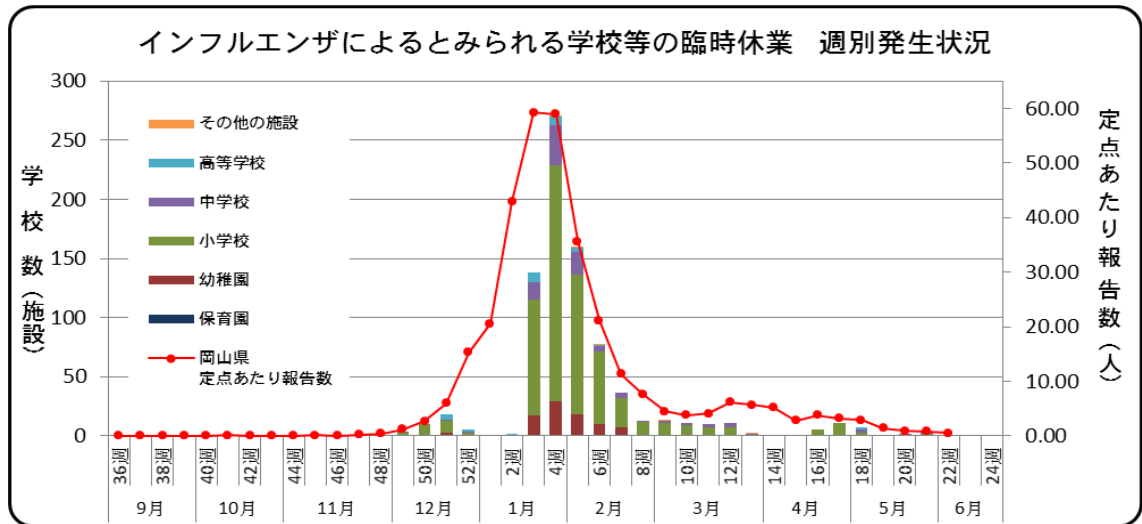


【2012 / 13 年シーズン】



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

今シーズン（2014 年 9 月 1 日～2015 年 8 月 30 日）のうち、2015 年 5 月 31 日までのインフルエンザによるとみられる臨時休業は 818 施設で、昨シーズン（652 施設）より増加しました。施設別では、幼稚園 86 施設、小学校 600 施設、中学校 99 施設、高等学校 28 施設、その他 5 施設でした。初発は 2014 年 10 月 21 日で、昨シーズン（11 月 13 日）より早い報告となり、今シーズンのピークには 1 週間に 271 施設の報告がありました。



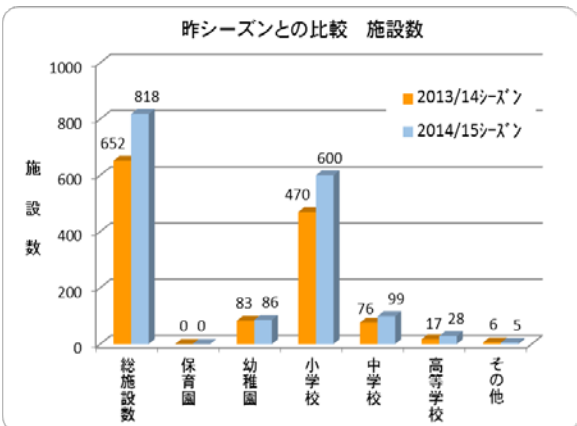
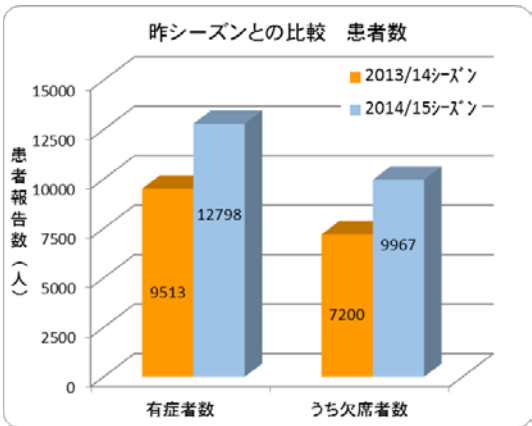
1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数	うち欠席者数	施設数合計	休園・休校数	学年閉鎖	学級閉鎖	初発年月日
岡山県全体	12798	9967	818	18	212	588	H 26. 10. 21
岡山市	5194	3884	307	2	43	262	H26. 12. 1
倉敷市	3035	2478	167	3	26	138	H26. 10. 21
備前地域	807	681	68	0	26	42	H26. 12. 9
備中地域	1653	1321	134	5	55	74	H26. 12. 8
備北地域	377	212	17	1	10	6	H27. 1. 16
真庭地域	308	242	26	3	14	9	H26. 12. 16
美作地域	1424	1149	99	4	38	57	H27. 1. 13

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳 累計：818 施設

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他
施設数	—	86	600	99	28	5



5. インフルエンザによる入院患者報告数(県内基幹定点 5 医療機関による報告)

今シーズン（2014 年 9 月 1 日～2015 年 8 月 30 日）のうち、2015 年 5 月 31 日までのインフルエンザによる入院患者数は、99 名であり、昨シーズン（68 名）より増加しました。年齢別では、9 歳以下（33%）及び 60 歳以上（56%）が多くを占めました。週別では、第 5 週に入院患者数が最も多くなりました。

【2014 / 15 年シーズン(2014 年 9 月 1 日～2015 年 5 月 31 日)までのインフルエンザにより入院した患者の累計数】

年 齢	1 歳 未満	1～4 歳	5～9 歳	10～ 14 歳	15～ 19 歳	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70～ 79 歳	80 歳 以上	計 *
入院患者数	2	22	9	4	2		2	2	1	8	20	27	99
ICU 入室											3		3
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)		5		1						2	4	3	15
頭部 MRI 検査(予定含)	1	2	2						1		1	1	8
脳波検査(予定含)	1	2	2										5
いずれにも該当せず	2	16	10	1	1	2	1	1		7	5	9	55

* 重複あり

